

平成 17 年 2 月 10 日

各 位

会社名 株式会社エスコム
 代表取締役社長 名原 健治
 (JASDAQ コード番号 9472)
 問合せ先 代表取締役副社長 丁 秀鎮
 (TEL 03-5114-0763)

平成 17 年 3 月期通期業績予想 (連結・単独) の修正について

平成 16 年 11 月 19 日付当社「平成 16 年 3 月期 中間決算短信(連結)」にて発表しました平成 17 年 3 月期 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日) の連結および単独業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 17 年 3 月期通期業績予想の修正等

(1) 連結 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日) (単位 : 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	2,000	150	140
今回修正 (B)	1,200	364	848
増減額 (B - A)	800	514	988
増減率 (%)	40.0%		
平成 16 年 3 月期通期業績 (C)	2,125	187	164
増減額 (B - C)	925	551	1,012
増減率 (%)	43.5%		

(2) 単独 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日) (単位 : 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	1,300	150	140
今回修正 (B)	600	353	814
増減額 (B - A)	700	503	954
増減率 (%)	53.8%		
平成 16 年 3 月期通期業績 (C)	1,477	195	172
増減額 (B - C)	877	548	986
増減率 (%)	59.4%		

2. 修正の理由

(1) 連結業績予想の修正等

売上につきましては、下記(2)の単独売上の減少及び子会社インストラクTVにおいて、視聴者の新規獲得の伸び悩み及び、解約の増加による視聴者契約の減少並びにCATV局への番組提供の過当競争下での、配信料の値引き等により当初計画を下回る見込みです。

経常損益及び当期純損益につきましては、単独業績予想の修正に伴うものであります。

(2) 単独業績予想の修正等

売上高につきましては、商事部門として新たな事業の柱を育てるべく予定をしていた通信販売チャネルを用いた文具・事務通信機等の卸事業への本格参入、並びにその他の予定していた新規事業の立ち上げが来期以降にずれ込む見通しとなったことから、当初計画を下回る見込みです。

また、従来の教材等事業においても新たな商品の開発・販売チャネルの獲得に努めましたものの、主力の中高教科書教材の販売案件が小口化し低調に推移したことにより当初計画を下回る見込みです。従来の販売戦略の冷え込みが激しい中で、厳しい市場ニーズの変化に対応するべく新たな販売戦略へと切り換えを図っております。

経常損益につきましては、教材等事業の売上高の減少に伴う粗利益の減少のほか、商事部門を中心とした新規事業における本格参入の為の費用の投下が先行した事により、

更には現在設立申請中ですが、合併新会社を設立することによる中国での通信販売によるオフィス文具等卸事業への海外進出に伴う費用の投下が先行して実施されたことにより、当初計画を下回る見込みです。

当期純損益につきましては、(2)で述べた教材等事業の売上予想を下方修正するに際し、併せて現有する在庫商品の評価替えによる評価損(約480百万円と予測)の計上を見積もった結果、当初計画を下回る見込みです。

これは従来の販売方法による売上の限界点を見越し、それに変わる新たな販売戦略の構築・推進に向けて、商品構成の適正化を図った結果によるものであり、現段階において在庫の健全化を図ることが、今後の教材等事業の活性化と高利潤の追求に向けて不可欠であると判断いたしました。

当社は今、市場ニーズに適合した戦略を展開することで安定性を確立するとともに、新規事業を開拓することで創発性の期待される企業へと生まれ変わろうとしています。

今期中の実現は難しい見通しとなり業績予想の修正をさせて頂きましたが、来期以降につきましては、今期に行ってきた事が実を結び、黒字化が定着し、企業価値を高められる

ものと確信をしております。

全社一丸となって早期の実現に向けて努力するとともに、これからも信頼性の高い企業情報の提供を行ってまいります。

(注) この発表文に記載しております予想数値は、現時点で入手可能な情報による判断および仮定により算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因により、実際の数値は当該予想とは異なる場合がありますので、予めご承知願います。

以上